

第4章

特徴的な学校の取組

- ・ 鳥取市立浜村小学校
- ・ 鳥取市立高草中学校
- ・ 鳥取市立福部未来学園
- ・ 米子市立彦名小学校
- ・ 境港市立外江小学校
- ・ 米子市立湊山小学校

児童生徒の学力の伸びが大きい学校や、非認知能力・学習方略の数値が高い学校を訪問し、学校で意識して取り組んでいることを聞き取りました。

児童生徒の学力の伸びや、学力の下支えとなる非認知能力や学習方略を高めるために効果があると思われる取組を紹介します。



自ら学びに挑戦し、最後まで粘り強く取り組む 「笑顔あふれる浜っ子の育成」に向けて ～鳥取市立浜村小学校～

1 とっとり学力・学習状況調査の状況

【学力レベル】5年生及び6年生の国語・算数ともに前年度を大きく上回る。特に国語では、5年生で上位層、下位層のほぼ全員に伸びがみられ、6年生では「学力を伸ばした児童の割合」「学力の伸び率」が県平均を上回るとともに、上位層が増えた。

【主体的・対話的で深い学びの実施】6年生で県平均を上回る。

【学習方略】6年生ですべての項目において県平均を上回り、特に努力調整方略の伸びが顕著である。

2 効果があると考えられる取組

令和3年4月から「午前授業5時間制」を本格的に導入している。午前授業5時間制によって生み出された「基礎タイム」の取組の中で、国語・算数を中心としたドリル学習等で基礎学力の定着を図ったり、ソーシャルスキルトレーニングを行う「貝がらタイム」などを通して、温かいコミュニケーション環境づくりを行ったりしている。また、昨年度から、国語科を中心に校内研究を進めている。

(1) 全教職員が共通理解して取り組む「授業づくり」

国語科において、付けたい力を明確にした単元を貫く言語活動を位置づけ、単元構成を意識した授業づくりの研究を進めてきている。「子どもたち全員に力を付ける」ために、基礎学力の向上はもちろんのこと、伝える必然性のある場の設定や1時間の授業構成のスタンダードの構築にも取り組んでいる。

①単元を貫く言語活動を位置付けた、単元構成を意識した授業づくり

単元の導入で、「付けたい力」を明確にし、言語活動の作品モデル（リーフレット・〇〇ずかん等）を提示することで、児童に見通しをもたせている。単元を貫く「学習計画ポスター」を教室に掲示し、学習した内容を書き込んだり、学習で使用したワークシート等を貼ったりして、学習の足跡として残るようにしている。授業のなかで、前の時間を振り返ったり導入に戻って考えたりするときに、掲示物を活用しながら学習を進めている。また、掲示物があることで、児童がいつでも振り返って考えることができるので、学習の手がかりとしても参考になっている。



単元を貫く「学習計画ポスター」

教員は、単元構成を意識した授業をつくるようになった。単元を貫く言語活動や付けたい力などのゴールイメージを児童と共有することで、児童が見通しや意欲をもち、主体的に学習に向かうことができるようになってきている。単元を貫く「学習計画ポスター」を児童と共有し、活用していく授業が、主体的・対話的で深い学びの実施の伸びにつながっていると考えられる。

(2)「基礎タイム」の取組

学校経営方針のもと、知・徳・体の3つのプロジェクトチームを構成している。その中の一つである「知」プロジェクトチームでは、自ら学びに挑戦し、最後まで粘り強く取り組む子どもの育成を目指し、基礎・基本となる学力の定着と向上を図る取組を行っている。特に、次に示す①②の取組の積み重ねが努力調整方略、柔軟的方略、プランニング方略などの値の向上につながっていると考えられる。また、「徳」プロジェクトチームでは、集団の一員として所属感や安心感をもたせ、自己有用感や自己肯定感を育むため③のような人間関係づくりの取組を行っている。

①「浜っ子がんばりテスト」と「家庭まなびがんばり週間」

年に4回、「基礎タイム」の時間に「浜っ子がんばりテスト」を実施している。漢字、計算を中心にしており、基礎・基本となる学力の確実な定着をねらいとしている。問題作成及び採点集計等は級外職員が中心となって行う。また、「浜っ子がんばりテスト」に向けた学習期間として「家庭まなびがんばり週間」を位置づけることで、児童が自ら学びに挑戦しようとする意欲の向上と家庭における学習習慣の定着を図っている。テストを意識して計画的に学習できるように、自主学習等でテスト勉強に主体的に取り組むよう働きかけている。



「浜っ子がんばりテスト」実施

②「ウルトラ浜っ子計算大会」

この取組は、7月、12月、3月の長期休業前に実施している。百マス計算を中心にして、たし算・ひき算・かけ算等、学年段階に合わせて設定している。基礎タイムの中で事前に計算練習に繰り返し取り組んだ後、自己タイム目標を設定して意欲をもって取り組めるようにし、目標に向かって挑戦する気持ちを育てることをねらっている。「ウルトラ浜っ子計算大会」当日は、全校で一斉にスタートし、終了後、全校朝会等で上位者の表彰を行っている。



計算大会に集中する児童

③「貝がらタイム」

前年度から、気高中学校区の共通実践として実施しており、「アドジャン」「二者択一」などを通して温かいコミュニケーション環境づくりに努めている。約束にそって話をしたり、質問したりすることを通して、相手を見て話したり聞いたりすることができるようになってきている。不登校傾向だった児童も、最初は数名のかかわりから始まり、現在ではその人数も増えてきているなど、取組の効果は大きい。「貝がらタイム」は、自己効力感の伸びにもつながっていると考えられる。



グループごとに「アドジャン」

(3)「KSM (Keep Smile Meeting)」で教職員の資質向上へ

初任者と若手教員を中心としたメンターチーム研修を行っているが、それとは別に月に一回程度「KSM (Keep Smile Meeting)」の取組を行っている。メンターチームに属さない先生方も力を付けていけるようにしたものである。校内の職員が講師となり、学級経営や授業等についての実践や経験について紹介したり、これまでに教員経験のある地域の方に講義をしていただいたりしている。職員同士のコミュニケーションをとることや、教職員としての資質向上を図るためにもよい機会になっている。



「学級経営」について講義中

全校体制で取り組む、生徒主体となる授業づくり ～鳥取市立高草中学校～

1 とっとり学力・学習状況調査の状況

【学力レベル】国語・数学ともに「学力を伸ばした児童生徒の割合」が高い。特に、2年生では算数・数学の「学力の伸び率」が県平均を大きく上回る。

【学習方略等】2年生は認知的方略、努力調整方略の値が高く、柔軟的方略の値にも伸びが見られる。3年生では認知的方略、努力調整方略、柔軟的方略、主体的・対話的で深い学びの実施の値が高い。

【非認知能力】2年生及び3年生で自己効力感の伸び、3年生では向社会性にも伸びが見られる。

2 効果があると考えられる取組

「安心・安全な学校づくり」を教育活動の基盤として、「主体的に取り組む態度」を評価するルーブリックづくりを中心に全校体制で授業改革に取り組んでいる。生徒の主体的な学びの創出に主眼を置いて先生方が教科を超えた学び合いを行い、授業のあり方を柔軟に変えていくことで、生徒の主体的な学習を促し、学力を伸ばしていると考えられる。

(1) 学びの基盤となる「安心・安全な学校づくり」

①信頼関係を築く道徳科×自治的活動「Smile プロジェクト」

令和4年度の学校教育目標を「自らの生き方を主体的に創造できる生徒を育成する、安心・安全な学校づくり」とし、学びの基盤となる「安心・安全な学校づくり」に力を入れてきた。規範意識、授業規律などの徹底により、安心して授業を受けられる環境づくり、「心に問いかける指導」を通じた教師と生徒の信頼関係づくりを進めている。特に道徳科では、毎年授業研究会を行い、「心に問いかける指導」を意識した授業づくりに全校体制で取り組んでいる。

生徒会執行部の企画による全校道徳は、令和5年度は「安心・安全な学校とは」というテーマで行った。その中で、「今年度の『Smile プロジェクト』では『安心・安全な学校』にするための啓発動画を作成しよう」と生徒会執行部から提案された。道徳科の時間に考え、議論した「安心・安全」につながる課題意識から、各学級でテーマを決め、内容や構成を話し合い、一人一台端末を活用しながらそれぞれが役割をもち、協力して撮影した。作成した各クラスの動画を全校で視聴した後は、考えたことを再び話し合った。このような生徒の自治的な取組が、向社会性や自己効力感の一層の高揚につながったと考えられる。

②生徒同士のコミュニケーションを円滑にする「Tタイム」

「二者択一」「アドジャン」などの短時間グループアプローチの活動に、週に一回、全校で取り組んでいる。継続して取り組むことで、生徒にとっては「グループやペアで話すことが当たり前」となり、授業中も対話しながら学習することができるようになってい



生徒主体のSmile プロジェクト



Tタイムの様子

る。この取組を継続することで、肯定的に受け止める話合いのスキルの獲得や受容的な仲間づくりが進み、上記のような自治的な取組や協同学習への取組を活性化させていると考えられる。

(2) 生徒の学びに向かう姿を変える授業づくり

①主体的に取り組む態度を評価するルーブリックづくり

生徒の主体的な学習を促すことに重点を置き、「生徒をわくわくさせるめあて」「楽しそうなめあて」を設定し、グループを活用した協働的な学びを進めてきた。令和4年度より、「主体的に取り組む態度」を評価するルーブリックづくりに職員が一丸となり、互いに学び合いながら取り組んできた。

	自らの学習の調整	粘り強さ
A	友だちの考え方と比較して、より手際の良い考え方や多様な考え方ができるよう、自らの考えの過程を振り返って検討している。	比例、反比例の必要性と意味を理解し、より手際の良い考え方や多様な考え方を示すために、いろいろな方法を試している。
B	問題を解く過程で、問題に適しているか、正しい知識を活用したかを自分でチェックしている。	問題を解決するために、今まで習った知識を振り返ったり、ノートを見返したりして、あきらめずに解法を見つけようとしている。
C	間違いがあっても修正せず、そのままにしている。	問題が解けないとすぐあきらめて、答えや友だちの考えを写している。

数学科のルーブリック例

ルーブリックの表現は、「生徒に分かり易いこと」を大切にしながら「自らの学習の調整」「粘り強さ」の2項目について3段階で示し、単元のはじめに生徒と共有している。どのように学びに向かえばよいか、生徒が自分でとらえられるようにすることで、学習方略の値を伸ばすとともに、達成を生徒自身が判断できるようにすることで、自己効力感の伸びにもつながっていると考えられる。

②協同学習の考えを取り入れて

数学科では、(1)のような取組を通して培った人間関係を意識的に活用した授業づくりを行っている。スライド等の成果物をグループで作成したり、グループで話し合っただりする学習活動は、「自らの学びが仲間の役に立つ、そして仲間の学びが自分の役に立つ」と考えられるように、個々の生徒が目的をもって取り組めるものになっている。ゴールや成果物の設定も、「班の全員が説明できるようにする」「班の全員が解くことができる」等、互いのかかわりをとおして、皆ができるようになることをねらったものになっている。



グループ活動の様子

③生徒のやる気を引き出す、生徒主体の授業づくり

各教科では、「何のために学ぶのか」「どのように学ぶのか」を明確にすること、見通しをもって学習に向かわせることを大切にしている。その上で、生徒がそれぞれの方法で解決策を見いだしていけるように授業を構成している。

〈数と跡の人〉 藤沢 宗家
見わたせば花も紅葉もなかりけり浦の苫屋の秋の夕暮れ
(歌の核心) 花びら
(題) 花も紅葉もなかりけり
(直訳) 見渡すと花も紅葉もないことだ。海辺の苫屋の辺りの秋の夕暮れよ。
・言葉というのは藤夫がすむ海辺にある木でできた真実な家のこと
・そこに花や紅葉はないのにあえていれることでその寂しさを表している

(ポイント) 三句切れ。傍書止め(字書れ)

最頻値(ヒストグラム) 最頻値ではAチームとCチームが同じ

A・7.5	B・6.5	C・7.5
-------	-------	-------

生徒が作成したレポート

国語科では、単元を貫く課題を設定してゴールを明確にし、一時間一時間の学びが重なった末に課題解決の達成感をもたせることができるようにしている。また、教師が教えすぎるのではなく、生徒が自分で情報を得て、自分の力でまとめ、説明できるような学習活動になるように心掛けている。

数学科では、授業の流れ、ゴール、評価を明確化し、授業の始めに生徒と共有するなど、生徒が見通しのもてない「迷路」に挑むのではなく、見通しをもって課題に取り組めるような授業づくりを行っている。これは、学習活動中の「全体共有」などでも同じで、発表者は「皆に分かるように伝えること」、聞く側も発表者の意見をどのように聞くのかについて、課題意識をもたせるようにしている。

このような、個々の生徒が常に学びの主体となって取り組める授業づくりが、様々な学習方略を身に付け、活用しながら、一人一人が学力レベルを向上させることにつながっていると考えられる。

安心・安全な環境づくりと 対話的な学びを大切にした取組で児童生徒を育成 ～鳥取市立福部未来学園～

1 とっとり学力・学習状況調査の状況

【学力レベル】国語・算数ともに「学力レベル」が向上しており、県平均よりも高く、「学力を伸ばした割合」「学力の伸び率」で県平均を上回る。

【学習方略】柔軟的方略、プランニング方略、作業方略、努力調整方略の値が伸びている。

【非認知能力】自己効力感、やりぬく力の値が伸びている。

2 効果があると考えられる取組

福部未来学園では、幼稚園年長児から9年生までの学年を3つ（初等、中等、高等）のブロックに分けている。成長の節目を設定することによる安定した学校づくりと児童生徒の主体的な学習を促す学習展開の工夫により、学習方略や学力レベルの値を伸ばしていると考えられる。特に顕著な伸びの見られる昨年度4年生（中等ブロック）の取組を中心に紹介する。

（1）安心・安全な環境づくり

安心・安全な環境づくりのために、学級でルールの徹底を大切にしている。学習規律、準備物、教具の置き方等、学習環境づくりに取り組んだ。この取組が、児童生徒同士、児童生徒と教職員との良好な関係につながり、児童生徒が安心して学校生活を送ることができることにつながると共に、学習を支える基盤となっている。

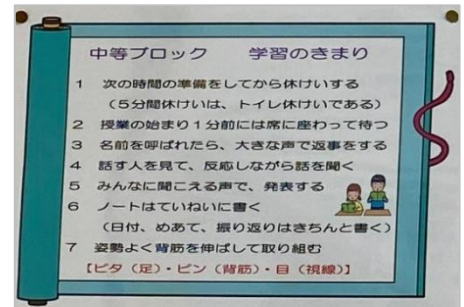
①係活動による自治的な活動の充実

4年生では、委員会活動への参画に向けて係活動の充実を図った。委員会活動は、よりよい学校生活にするために課題を見だし、みんなが安心して生活できるように話し合うことが大切である。その話し合い活動を充実させるために、学級においては係活動を充実させ、何でも言い合える関係づくりを進めた。また、様々な活動を通して、その活動を振り返る中で、学級の友達のいいところを見つける活動による自己肯定感、学級集団への所属感や自己有用感の醸成を図った。

②学級を越えた活動への発展

児童は、学級内での係活動が充実するにつれて、学校のために何かできることはないかと考えるようになった。そこで目をつけたのが、校内にあるプランターの管理である。学級で水やりの実施方法について話し合い、役割分担し校内美化のために学級全体で一役担うことを決めた。この自治的活動の甲斐があり、プランターに植えられている花が長く咲き続け、児童は校内の環境づくりに貢献できたという有用感を味わうことができた。この取組により、みんなで協力して何かを成し遂げる良さを感じるとともに、様々な方々から誉められることで自己効力感とやりぬく力の醸成にもつながった

中等ブロック「学習のきまり」

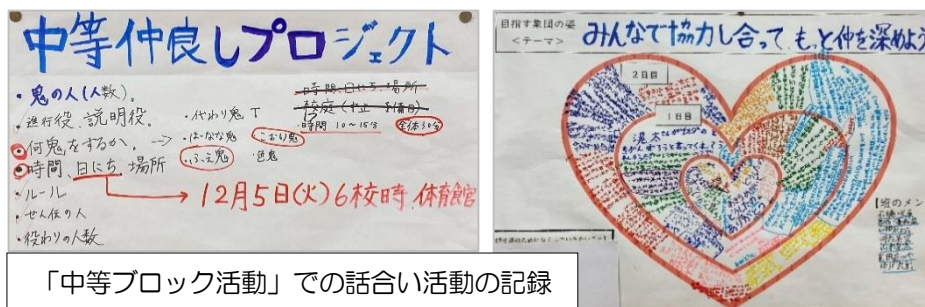


学級の友達の「いいところ見つけ」



と考えられる。

また、この経験が、中等ブロックに自治的活動を広げるきっかけとなった。



「中等ブロック活動」での話し合い活動の記録

(2) 対話的な学びを実現するための授業づくり

安心・安全な環境づくりや自治的活動等により醸成された人間関係を活かし、対話的な学びの実現を意識するとともに、柔軟的方略の値の向上をめざした授業づくりを校内研究として設定した。また、子どもの姿として「自分の考えをもつ」「対話的な学び」「個人の考えを修正・組み直す」というサイクルを実践する中で、「話し合っていて考えることが楽しい」という児童生徒の育成をめざしている。

①自己との対話、他者との対話を意識した学習展開の工夫

授業においては、めあてづくりを子どもたちとともに行い、1時間の授業で考えることを明確にするようにした。これを土台に、算数科においてはグラフ、表、式、言葉等を使って、自分の考えを表現できるようにした。また、他者との対話によって自分の考え方と比較したり解決方法を考えたりするようにした。さらに、他者との対話によって学んだことを振り返りで記載するように指導した。この取組が、柔軟的方略の値の伸びにつながったと考えられる。

①めあて・まとめ・振り返りを意識した書く活動の充実

毎時間の学習において、自力解決や対話による学びに取り組んでいる。学びを積み重ねる中で、単元を通してどんな学びがあったのかを振り返るために、単元のまとめ(振り返り)を書くことで「学びの整理」に取り組んでいる。この取組により、既習事項が確認できることから、学力レベルが上がった要因と考えられる。

②放課後学習による基礎的・基本的内容の定着

毎週火曜日に3・4・5年生を対象とした放課後学習を行っている。特に学力定着に困難を抱える児童数人を対象とし、基礎学力定着を目標に実施している。市事業を活用して地域の方等にお世話になり、基礎・基本の定着に向けて指導・支援していただいている。この取組は、国語・算数ともに、学力分析における下位児童の割合減少につながったと考えられる。

(3) キャリア・パスポートの活用による振り返りと目標設定の充実

キャリア・パスポートにおいて、毎年1年間の目標を設定している。目標をたてるが年間を通して意識されないまま年度末を迎えるという実態があった。そこで、自分でたてた目標を短いスパンで振り返ることができるよう、約1ヶ月のスパンで学習面と生活面について振り返る活動に取り組んでいる。先月の自分の取組を振り返り、今月頑張ることをめあてとして設定し、それを意識して取り組むといった活動である。この取組は、柔軟的・プランニング・努力調整方略の伸びにつながっていると考えられる。

